

ついに、保育園生活が終わりを迎えようとしています。何度この日を迎えても、寂しさがなくなることはなく、もっとできることがあったのではないかと、できなかったのではないかと、思ってしまう。毎回、自分の保育士生活の中で今が一番と思いつきながら、子どもたちと関わらせていただいているが、今年度は自分のしたいこととできていないことに差があり、余計にそう感じ、申し訳なさを感じています。そんな中、いつも助けてくれるのは少ない時間の中でやり遂げてしまう子どもたちと保護者のみなさまからいただく温かい言葉の数々でした。この1年、子どもたちが笑顔で日々を過ごすことができたのは、保護者の皆様の温かいご理解とご協力があったことと、心より感謝しております。

この1年、4月のおたよりでもお伝えしたように、「自分で選択する・決めること」「挑戦すること」「困ったときにどうしてほしいかを言葉で伝えること」を大切に、日々子どもたちと向き合ってきました。その一つとして、ひなまつり会のピアノでは、全員が同じ曲を弾く形から、3曲の中から自分で選ぶ形へと変更しました。子どもたちは、少し難しいからこそ「やってみよう」と心を動かし、悩みながらも一歩踏み出す姿をたくさん見せてくれました。思うようにいかず立ち止まることもありましたが、それでも自分で決めたことに向き合い、最後までやり遂げようとする大切さが伝わっていただければ幸いです。

ご卒園おめでとうございます

「したい」と思うだけでは、叶えることは難しいこと、一生懸命取り組んだからといって、叶うかといえばそうではないということ、それでも、自分の目標やしたいことに向かって努力する（がんばる）ことが大切だということをお伝えしてきました。これから、うまくいかなかったとき、困難にぶつかることもあると思います。ここで育まれた経験や思いは、これから先の歩みの中で、子どもたちを支える力になってくれると信じています。ひなまつり会当日に全員が聞かない状況を受けて、「どうにか保護者の方に見ていただく機会をつくれないうか」と考え、評書引き講座の日に発表の場を設けさせていただきました。早めの登園をお願いする形となりましたが、快くご協力くださる姿に触れ、このクラスで過ごせたことの幸せを改めて感じました。

6回目のひまわり組担任となった今年度、H26年度・H31年度・R3年度・R5年度に見送った子どもたちの弟さんを再び担任させていただくという縁もあり、子どもたちの成長のつながりを感じられる、特別でかけがえのない一年となりました。

子どもたちと過ごしたこの1年の積み重ねは、私にとって何よりの宝物です。嬉しかったこと、悩んだこと、そのすべてが大切な思い出として心に残っています。

最後の贈り物はコサージュです。同じ色にならないよう、ひとつ、ひとつ色の組み合わせを定めています。卒園は終わりではなく新たなスタートです。

ひとりひとりの個性が輝く未来が待っていますように。

1年間、温かく見守っていただき、本当にありがとうございました。



入学式の日、ぜひ会いに来てください！
これからのみんなの成長を楽しみにしています。嬉しいことがあった時、困ったことがあった時、いつでも会いに、遊びに来てください。



ご卒園、誠におめでとうございます。

5年前、私を見るなり「全力泣き」で迎えてくれた子どもたちの姿を、今でも昨日のことのように鮮明に覚えています。

すみれ組からの2年間、多くの「はじめて」に立ち会わせてもらった時間は、私にとって何よりの寶物でした。失敗しても「もう一回！」と立ち上がるキラキラした瞳は、いつも私の力になっていました。

何より大切にしてきたのは「話し合い、自分たちで考えて動く」こと。一人ひとりの意見を尊重し向き合う中で、気がつけば私の方が子どもたちに助けられ、まるで「友達」のような対等でかけがえのない絆を築けた気がしています。

時間は無情に過ぎ去り、寂しさは尽きませんが、共に過ごした日々は一生の宝物です。

最後になりますが、お子様の健やかな成長と、ご家族皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。子どもたちの成長した姿を楽しみにしております。

西村 祐典